

世界のソーシャル・ビジネス

ベルギー編



看板もない小さなオフィスで
目を輝かせるバートさん



「ヒーローラッツ」大活躍、 ねずみの臭覚で地雷を発見、

「9歳の時、ハムスターをも
らった。以来、ネズミ、モルモッ
ト、リスなどありとあらゆるネ
ズミ族を飼ったよ」

ヒーローラッツ(訓練したネ
ズミ)による地雷探索法人A P
O P O(アポポ)を創業したバ
ート・ウィートジェンスさんは、
アントワープ大学校舎内の小
さなオフィスで目を輝かせる。

1998年、ベルギー政府
の研究開発助成金を得て、たっ
た一人でスタートした事業
だったが、今では、タンザニア
モザンビークなど、発展途上
国5カ国に拠点を置き、270
人の現地スタッフを雇用する
国際社会事業に発展した。

この「ネズミ好きの変な男」
は、2008年、世界経済
フォーラムで、「グローバル・
ソーシャル・アントレプレナー・
オブ・ザ・イヤー」に選ばれた。
2011年実績で、モザンビーク

クを中心に、260万平方
を調査し、地雷792個、不
発弾227発、爆発関連危険
物2600個以上を処理。タ
イ・カンボジア国境地域での
地雷調査にも参画し、2013
年にはヒーローラッツが活躍
する予定だ。

「そこそこテクノロジー」

大学で工業デザインを学ぶ
うちに、最先端技術より「そこ
そこテクノロジー(アプロプリ
エートテクノロジー)」が有用
な場合も多いことを知った。
途上国で求められるのは、現
地の限られた資金で調達でき、
現地の人で運営するやり方だ。
バードさんは大学卒業後、
工業デザイン事務所に就職し
たが、「使い捨てコマースヤリ
ズム」や「過剰ハイテク競争」に
馴染めずに挫折。ちょうど90
年代の欧州では、対人地雷廃

絶運動が盛んに繰り広げられ
ていた。

バートさんは、「ネズミの優
れた嗅覚は、火薬をかきわけ
ることができる」という学術論
文を思い出す。

1995年、世界に先駆け
てベルギーで全面禁止法が成
立。1997年にオタワで国際
条約が調印されると、資金や
技術援助が奨励され、世界中
で研究ブームが始まった。ハイ
テクな方法ばかりの中で、訓練
したネズミを用いるバートさ
んのアイデアは奇抜だった。

アフリカへ出かけ、野生のア
フリカン・ジャイアント・ポー
チド・ラッツを捕獲し、訓練を
始めた。このネズミは、臭覚に
優れ、軽量で地雷を爆発させ
ない。寿命が6〜8年と長く、
現地調達が簡単で安価だ。

2000年に活動の拠点を、
タンザニアのソコイネ大学農
学部へ置き、バートさんは文
字通り世界を駆け巡って、資
金集めに腐心した。

世界の社会起業家ネット
ワークであるアシヨカから、
「チェンジ・メーカー」に認定さ



ヒーローラッツが地雷発見

れると、EU、国連開発計画、
世界銀行、スイス政府など、世
界中の政府・非政府機関、企業
組織、個人から寄付が集まり
出した。日本からの寄付はま
だだが、日本人の琴線に触れ
る資金集めの方法を模索中だ。
ヒーローラッツには、他分野
でも期待がかかる。結核感染
者検知はすでに実用段階にあ
り、マイクログカメラを背負わせ
て瓦礫の中を走らせ、行方不
明者を捜索する研究も進行中
だ。被災地で大活躍するヒー
ローラッツの雄姿を見る日は
近いかもしれない。

(ブリュッセル 栗田路子)

©Xavier Rossi.